

研修・行政視察報告書

平成30年7月26日

会派名 江南クラブ

会派代表者 福田 三千男

(参加者：福田三千男、宮地友治、古池勝英、牧野圭佑(11日・12日)、伊神克寿、稲山明敏、安部政徳、東猴史紘)

研修参加・行政視察の結果について、次のとおり報告します。

① (研修参加)

年月日	平成30年7月11日(水)(1日目のみ参加)
研修時間	午後1時00分～午後5時30分
研修場所	早稲田大学大隈記念講堂(東京都新宿区戸塚町)
研修内容	全国地方議会サミット2018 「議会のチカラで日本創生」 【基調講演】「地方議会から日本を変える」 講師：北川正恭(早稲田大学名誉教授、元三重県知事) 【特別講演】「地方創生の展望」 講師：野田聖子(総務大臣(急遽欠席のため代理対応)) 【講演、ディスカッション】「真の地方創生とは何か」 講師：片山善博(早稲田大学教授、元総務大臣)、 大西一史(熊本市長) 【課題整理】「地方創生時代に求められる議会力」 講師：江藤俊昭(山梨学院大学教授) 【パネルディスカッション】 「議会力強化のための、議会事務局の変革」 パネリスト：小林宏子(東京都羽村市議会事務局長) 清水克士(滋賀県大津市議会事務局次長)

② (行政視察)

年月日	平成30年7月12日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分
視察先	埼玉県環境整備センター(埼玉県大里郡寄居町)
視察項目	資源循環工場について

③ (行政視察)

年月日	平成30年7月13日(金)
視察時間	午前10時00分～午前11時30分
視察先	東京都板橋区
視察項目	公共施設跡地活用方針について

研修参加報告書

①

年月日	平成30年7月11日(水)(1日目のみ参加)
研修時間	午後1時00分～午後5時30分
研修場所	早稲田大学大隈記念講堂(東京都新宿区戸塚町)
研修内容	全国地方議会サミット2018 「議会のチカラで日本創生」
■目的	有識者と共に先進市議会の取り組みを学び、これからの議会のあり方を学ぶ
■内容	<p>全国地方議会サミット2018 「議会のチカラで日本創生」</p> <p>【基調講演】「地方議会から日本を変える」 講師：北川正恭(早稲田大学名誉教授、元三重県知事)</p> <p>【特別講演】「地方創生の展望」 講師：野田聖子(総務大臣(急遽欠席のため代理対応))</p> <p>【講演、ディスカッション】「真の地方創生とは何か」 講師：片山善博(早稲田大学教授、元総務大臣)、 大西一史(熊本市長)</p> <p>【課題整理】「地方創生時代に求められる議会力」 講師：江藤俊昭(山梨学院大学教授)</p> <p>【パネルディスカッション】 「議会力強化のための、議会事務局の变革」 パネリスト：小林宏子(東京都羽村市議会事務局長) 清水克士(滋賀県大津市議会事務局次長)</p>
■所感	早稲田大学大隈講堂で「全国地方議会サミット2018」に参加。西日本豪雨直後の視察であり特に大西一史・熊本市長の報告が参考になった。非常時の議会のあり方を決めておく必要性を指摘するものであった。豪雨災害の際、議員から様々な要望等が無秩序に寄せられるなど、その対応に追われて災害対策本部の業務に支障をきたした例もあるので、改めて江南市でも災害時の議会のあり方について議論を深めるべきだと感じた。

行政視察報告書

②

年月日	平成30年7月12日(木)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分
視察先	埼玉県環境整備センター(埼玉県大里郡寄居町)
視察項目	資源循環工場について
■目的 尾張北部環境組合による新ごみ処理施設の整備を控え、完全リサイクルを達成している最先端のごみ処理施設等を参考とする。	
■内容 ①彩の国資源循環工場視察 持続可能な発展と資源循環型社会の形成を目指す、公共関与による全国に先駆けた総合的「資源循環型モデル施設」であり、廃棄物を資源とする製品開発や効率的資源エネルギーの回収、廃棄物の発生抑制、公害防止などの様々な技術分野に取り組んでいる。 ②埋め立て処分場視察 施設内の埋め立て処分場及び跡地利用の公園施設を見学 ③オリックス資源循環株式会社視察 埼玉県のPFI事業により、最新の「ガス化改質方式」を採用しサーマルリサイクルを行う。受け入れたすべての廃棄物を再資源化し、ごみ処理の過程で発生する排ガスも洗浄・精製し、燃料用ガスとして発電に利用している。	
■所感 埼玉県環境整備センターに視察。県内市町村等からの一般廃棄物、県内中小企業等からの産業廃棄物を受け入れている。公共関与による環境産業・研究開発拠点として彩の国資源循環工場も整備した。 その中で埼玉県のPFI事業により「ガス化改質方式」を採用したオリックス資源循環株式会社の施設も視察した。受け入れた廃棄物は最大2000度で融解を行い、スラグ・メタル・工業塩・燃料ガスなどに変換することにより完全リサイクルを達成し、最終処分場に依存しない施設である。 ただし、同施設の年間ランニングコストが非常に高コストであり、江南市が予定しているごみ処理場施設に採用するのは難しいという意見が出た。	

行政視察報告書

③

年月日	平成30年7月13日(金)
視察時間	午前10時00分～午前11時30分
視察先	東京都板橋区
視察項目	公共施設跡地活用方針について
■目的 <p>江南市は施設の総延べ床面積の削減を念頭に公共施設の再配置を計画・検討している。このため、公共施設の統廃合を実施した自治体の事業方針や現状を参考とする。</p>	
■内容 <p>板橋区は昭和50年に長期基本計画の中で、施設整備計画を定め区内を5つの地域に区分し、公共施設の配置基準を定めてまちづくりを進めてきた。一方で昭和30年から40年代に建てられ建築後30年以上を経た施設も区内に多数存在する状況となってきたことから、老朽化が進む施設の改修・改築と合わせて、平成18年に策定した板橋区基本計画に施設整備方針を改めて定め、区民のニーズと社会経済状況を踏まえた適切な施設整備に取り組んできた。</p> <p>一方で、板橋区立学校適正規模及び適正配置審議会では、区立小・中学校の統廃合を進めるよう答申が出されたこともあり、小学校4校・中学校1校を廃校とし広大な敷地を持った廃止施設が生じてきた。こうした背景のもと、板橋区では公共施設の統廃合後の跡地を有効に活用する必要性が生じてきたことから、公共施設跡地活用方針を定め、収支均衡型財政構造への転換を最重要課題として取り組みを進めてきた。</p>	
■所感 <p>板橋区政策経営部政策企画課より公共施設跡地活用方針について説明を受けた。平成28年1月に板橋区基本計画2025を策定、基本方針の中で区有財産の有効活用が明記され、具体的に旧板橋第四中学校を改修して活用した。</p> <p>同校は平成18年3月の中学校の廃校に伴い、校舎・体育館を改修して用途転用した。校舎については板橋フレンドセンター及び文書倉庫として活用した。体育館については、1階を富士見地域センター、2階を板橋フレンドセンター体育館として活用。地域センターは近隣の児童遊園と隣接しており、その跡地については建物を除却し、児童遊園を拡張整備した。</p> <p>ただし、同区は将来の子どもの人口は増加が見込まれており、当初小中学校の統廃合を視野に入れていたが、いい意味で見直しをしているとのことなので、江南市とは異なる性格の自治体である。</p>	